

石破茂新総裁に期待

名門私立高校を経て一流大学を卒業。熾烈な就職活動の末に誰もが知る有名大企業に入社を果たす。旧態依然としながらも安定している社風に退屈し、安泰とも捉えられず、あっさり退職。外資系企業に転職を試み年俸制で働き、

その先は、とにもかくにも目新しいビジネスモデルで起業を果たそうと試みる若者が確実に増えているし、その年齢が益々若くなっているように思える。

テレビのコマーシャル(CM)や、タクシー内広告に溢れる転職サイトの宣伝を見る度に、どのくらいの学歴や能力、資格、容姿、家柄を持った人間がスマートフォン1台を頼りに仕事を移っていくのか想像もつかない。

当然の事ながら、それらのサイクルで成功を手にするのは(いかなる段階で達成感や幸せを掴んだと言えるかは分からないが…)極一部の人間と聞く。そして、この手合いのサクセスストーリーの舞台は、大概が選択肢の多い大都会であろう。

それらを政治家という職業に照らし合わせてみよう。

評価が低かったものの、大きな失態も無かった岸田文雄氏があっさりと自由民主党総裁選出馬を諦め、派閥の解

体から9人もの候補者が遠慮なく乱立。15日間の選挙戦を終えた末、5度目の総裁選挑戦を最後の戦いと位置づけていた石破茂氏が、決選投票で高市早苗氏より逆転勝利を奪い、第28代総裁に選出された。

大臣経験者までが結果的には泡沫候補の如く惨敗し、誰もが過半数の議席を獲得出来ず、当選者の検討が全くつかめずと、実に見応えのある選挙戦であったが、何よりも、その人柄に惹かれ、個人的に応援を続けた石破氏が選出されたのは本当に嬉しかった(時々テレビに映るプラモデルが置かれる執務室の本棚に小生の書いた随筆集が陳列しているのが自慢である)。

正直な人であるがゆえ、長年に渡り自民党内の非主流派に甘んじてきた氏が悲願の総理大臣の座をつかんだわけだが、今後も独自の持ち味を発揮して新しく古い日本を創成してもらいたい。

そこで前述した都会での華やかなステップアップ術から見れば、中学校までを過ごした鳥取での素朴な原風景から早くに上京し、大臣までを務めた父上の他界後、29歳から政治道をひた走る石破氏の人生は継承者と挑戦者、双

文

伊藤公一

text by Kouichi Ito

方のスピリットマインドが分かり得る人と信じている。

外交、経済、防災と課題は山積しているわけだが、持ち前の胆力で信念を持って職務に全うしてもらいたい。

「石破茂先生、本当におめでとうございませう。なんだか日本が良くなる気がするぞ。」

Profile

1958年生まれ。伊藤病院3代目院長。北里大学医学部卒業、東京女子医科大学大学院修了。医師になって以来、国内外にて一貫してバセドウ病、橋本病、甲状腺癌など甲状腺疾患に対する診療と研究にひたすら従事。東京女子医大、筑波大学院非常勤講師。日本医科大学、了徳大学客員教授。日本内分泌外科学会、日本甲状腺外科学会理事。厚生労働省診断群分類調査研究班班長。伊藤病院 <http://www.ito-hospital.jp/> 名古屋甲状腺診療所(名古屋分院) <http://www.kojin-kai.jp/nagoya/> ざっぽろ甲状腺診療所(札幌分院) <http://www.kojin-kai.jp/sapporo/>

